

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500011		
法人名	社会福祉法人 清心会		
事業所名	グループホーム夢の郷		
所在地	岐阜県安八郡神戸町丈六道村西59番地		
自己評価作成日	平成22年4月7日	評価結果市町村受理日	平成22年9月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	別添の基本情報をご覧ください
----------	----------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年7月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のペースに合わせて、一日がゆったり、のんびりとながれています。スタッフは、どんなに忙しくても「大きな声を出さない。」「施設内を走らない。」を実行しています。そして、スタッフ間の申し送りも深刻な表情はしないこと、いつも穏やかな表情を保つこと。20代～60代までの年代のスタッフはそれぞれの良さを発揮して支援にあたっています。「気配り・目配り・心配り」という、気働きを実践していきたいと思っています。「私たちが、あなたのもう一つの家族です。」スタート時に、掲げたスローガンは、スタッフ間の合い言葉です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後日が浅く、「自分たちでこのホームを作っていく。」という気持ちで一体となり、管理者を中心に試行錯誤し、職員同士常に意見交換しながら日々の介護を実践している。毎月利用者と一緒に挿絵や文字を書き込み、作った壁新聞がリビングに貼られ、いつでも思い出話をしたり、今後の行事への参加意欲を高める働きかけをしている。階下に併設の通所施設があり、レクリエーションの参加やボランティアの訪問時は自由に行き来し、より多くの人と交流ができる機会になっている。利用者と職員が寄り添いながらゆったりと穏やかな空間で生活しており、今後に期待できるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域生活の続きのまま支援できるようにミーティングをかさねている	「お客様に安心を 職員に生きがいを」の企業理念の基に10項目の行動指針を掲げ、職員のひたむきな姿勢は感じられるが、全職員に理念が充分浸透していない。	月1回のミーティングや毎日の申し送り時に、全職員で話し合いの機会を活用し、1項目ずつ実践していただきたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所に近い商店への買い物に心がけて、入居者と一緒に出かけている。	自治会に加入していないが、地区行事に参加したり、小学生や保育園児が訪問し、利用者と共に交流を図っている。毎日の散歩や買い物は、住民に触れ合う機会として、挨拶や言葉を交わし地域と深まる努力をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症などの困りごとがあれば何でもご相談にのりますと、機会があるたびに地域に発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方から身近な意見を頂き評価結果をもとに取り組んでいる。特に避難訓練のご指導はお世話になれた	地元役員と行政関係職員、家族会代表者等が参加し、隔月に開催している。行事報告にとどまらず、貴重な意見から地域に根ざしたホームへの歩みとネットワークができつつある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域職員と話しやすい関係を築き研修にも参加していただくようにしていきたい。近くを通りかかった時も顔を出すようにしている。	保険者である広域連合や地域の包括支援センター・社会福祉協議会とは、隔月の運営推進会議等を通し、情報交換がしやすい関係作りができています。しかし、所在地である町の行政機関とは関係が希薄である。	研修会の案内や場所の提供等呼びかけて、情報発信し、様々な機会をつくりホーム側から、より積極的に協力関係を築く努力を期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所は2階にあるため危険防止のため階段に鍵を取り付けて施錠している。ガ族にも了承をえてもらっている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	居室が2階にあり、階下との境は廊下と調和した扉にカーテンを重ね合わせ、階段が利用者の目に触れない工夫をしている。全職員が身体拘束しないケアを理解し、日々の申し送り等で確認している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等の実施により、虐待の自覚がないまま行っていたことが虐待と気づき再認識した。布団に鈴をつけるのもいいなと知る。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で理解を深めるようにしているが全員が理解できているとは言えない。管理者自身も勉強不足である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的な説明にならないように時間をとって話し合いをしている。特に医療関係との協力関係の説明に時間を取るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族さまには来所時などに何でも言って頂けるように心掛けている。要望などをミーティングの場で話しあっている。	フリーダイヤルでいつでも相談を受ける体制があり、運営推進会議に家族代表者が出席している。入居時・介護計画作成時・面会時等で家族と接する機会を通し、意見や要望を聞き出す努力をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を聞く機会は持てているが中々全体の中で不満や苦言は言いにくく、把握は難しい。	職員会議での意見は議事録にまとめ、法人に提案できる仕組みやアンケートを実施し、職員の要望や意見を聞く体制がある。日々の仕事の中でも管理者に意見を言える雰囲気ができている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場を知ろうとしていないと感じることがある。スタッフ同士の間人間関係を把握できていない。一部特定者の意見を聞くだけでなく全体のことを知ってもらえるようにしたい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように計画を立てている。新人には特にマンツーマンで対応し、自信を持ってもらえるように丁寧に指導をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフ研修に参加、交流している。サービス向上に役立つ情報を流して教えて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を通してあらかじめのサービスを準備の中に要望などを取り入れ安心してご利用いただけるようしている。よく話をうかがうように心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の相談を真剣に受け止め当事業所としてどれだけ対応できるのか、話し合いをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに出来ることを実行し、ご相談しながら信頼関係を築くことにより、他のサービス利用も柔軟に考えている。医療機関との連携の話を詰めておく必要あり。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様の同じ思いで支援していることを伝えている。「私たちが、あなたのもう一つの家族です。」が当事業所のスローガンです。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの習慣で続けて来たお地蔵参りをしている方がおられる。入居者の希望を受け止め家族さまとともに受け止め継続している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族さまや親戚の方にも来所しやすい事業所として開放している。継続的に支援ができる」ように努めている。	以前利用していた階下の通所施設で慣れた職員が対応している。友人や親族の面会時間も限定せず自由に来訪できる配慮がある。来訪がない家族には、手紙を持参したり電話をかけ関係が継続できる支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間にはスタッフも一緒に過ごし会話を持つようにし、入居者同士の関係調整を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供に細かく記入し、これからも暮らし方に安心感を持っていただけるように連携を続ける。近くに伺ったら声をかけてみる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなか、声かけ見守りをする時々で言葉や表情などから確認するようにしている。	利用者の表情や言動を大切にし、わずかな変化も見逃さないようにしている。言葉で伝達が困難な利用者には、さりげない仕草から意向を汲み取り、気づきノートに書き込み、全員で回覧し共有するようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を知ることが、その方の理解に繋がることを、ご家族や地域の方の理解してもらい、お力を借りながら行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことよりも出来ることに注目し、その人全体を見るように心掛けている。良いところを引き出せたらいいなと感じて接している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様に最近の様子などを話し意見を伺いながらスタッフ間のカンファレンスを行っている。	家族が参加しやすい時間帯で、医師の意見を事前に聞き、管理者が職員と共に利用者の思いが反映できる計画を作成している。気づきノートを生かし毎月モニタリングを行い、全職員で目標を検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルし身体状況や日々の暮らしぶりを記録している。スタッフには申し送りノートを通し連携している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況に対応しながら柔軟に対応できるように心がけている。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を定期的開催して情報交換・情報提供を得て、ご家族様にお伝えしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の対応でかかりつけ医の受診をして頂いている。ご家族の都合のつかない時はスタッフが代わって対応している。	管理者は日頃の身体状況について書いた手紙を家族に託し、利用者のかかりつけ医を受診している。かかりつけ医からも、管理者宛てに返事があり、家族との接点を大切にしながら連携をとるよう努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の身体状況の変化を見つけたら看護職員に報告し、指示を受けている。小さな気づきが早期発見に繋がるように努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には本人に対する支援方法を提供し、スムーズな対応ができるように前もって面談するようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族さまとの意向を話し合い、終末期の取り組みかたを医療機関とも連携を取り、考えたい方針でいる。	開設後日も浅く、看取りをした利用者はいないが、医療との連携を図りつつ、看取りに対し前向きな姿勢を抱いている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着するまでの応急処置や準備すべきことをスタッフが把握しミーティングを行っている。実行は難しいと感じている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議での呼びかけで、近隣住民の方にも見守りなどお願いしている。	消防署や地元の協力を得て夜間想定で、避難訓練を実施している。緊急連絡網を掲示し、非常時の体制に備えている。利用者輸送用の大きなシート、AEDを常備し、非常食として水、食糧、毛布等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩とし尊敬しご本人の意志を無視した対応にならないようにしている。自己決定しやすいようにこえかけをしている。	他の利用者には聞こえないよう、耳元で排泄の声かけをするなど、職員は自尊心を傷つけないように配慮している。書類は、個人情報の保護に細心の注意を払っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声かけし表情を読み取れるようにして、些細なことでもご本人に決めて頂くように仕向けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、その日の調子に合わせて、入居者様と相談しながら生活をして頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりを認めお手伝いできるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一日の大切なひと時ととらえ、楽しく召し上がって頂けるようにしている。献立表作りや準備や後始末もみんなで行っている。	メニュー表を日めくり形式で利用者を書いて、食事への関心を高めている。持病や偏食のある利用者には、嗜好や体調に合わせた食材で提供している。季節により庭で食事をとったり、ランチに出かけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量の把握と記録をとり、管理栄養士のもとカロリー的にも食事は充実している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は全員が口腔ケアを施行している。嚥下障害からの肺炎などの防止に努めている。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、パターンを知り声かけ、トイレ誘導している。パット交換も時間を見図りながら対応している。	利用者全員がトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用し、利用者の自立に向けた支援をしている。身体レベルと体調に合わせ、おむつ使用の頻度を最少にする工夫をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分量のチェックや散歩などを勧め、身体を動かすことの大切さを、入居者と話あっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	これまでの生活のリズムに合わせて、入浴介助させていただいている。個浴対応として一人ひとり、お湯を入れ替えて気持ちよく入浴されている。	個浴で1人1人湯を入れ替え、ゆっくり時間をかけ対応している。希望により、シャワー浴や1階併設の通所施設の岩風呂の利用ができる。季節により菖蒲湯やゆず湯で入浴を楽しむ支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の活動に配慮している。出来るだけ日中の活動を促し体調を整えるように支援している。ご本人の希望に応じて休息がとれるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが薬の内容を把握できるようにしている。服薬時はご本人にも確認してもらい、キチンと服用できたか、病状の変化なども確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを見つけ、お願い出来るようなことを役割として行っていただく。必ず「ありがとう。たすかったわ。」と感謝の言葉をかけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や支援をしたり、弁当持参の外出や外食に出かけるなど、気分転換を図り入居者同士の親睦やご家族の交流にもなっている。	近所の神社への散歩、薬局への買い物、喫茶店へは日常的に行っている。系列施設へランチや、季節ごとの地域の催しや花見等に頻りにドライブに出かけている。	

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望される方は少額を手元を持って頂くようにしている。飴や駄菓子を近隣へ一緒に買いにでかける。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご自宅にかけるように支援している。耳が遠いため今後は季節感のあるはがきなどを準備したいと考えている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自分の馴染みのモノを持ってきて頂いて、使いやすいように置いて頂いている。リビングは季節感ができるように、手づくりで工夫している。</p>	<p>リビングには、利用者と毎月作成した壁新聞が貼られ、それぞれの行事を振り返りながら、話題のきっかけ作りとしている。手作りの日めくりを利用者が毎日交換したり、季節の花を飾り、居心地良い空間を作っている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>落ち着いて過ごせるスペースを工夫している。サンテラスに居心地のいいイスを置き、リビングに皆で座れるソファを準備する。季節の花を欠かさないようにしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>プライバシーを大切にしながら、今まで使ってきた馴染みのモノに囲まれ、ご本人が安心して過ごして頂けるように工夫をしている。</p>	<p>家族の作成した壁飾りを飾ったり、使い慣れた鏡台等、利用者は馴染みのものを自由に居室に持ち込んでいる。1人でゆったり過ごせるように、ソファで好きなテレビ番組をみている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの「わかること」「出来ること」をスタッフ間で話し合い、目印をつけたり、行動線を確認して事故のない安心した生活が送れるように努めている。</p>		